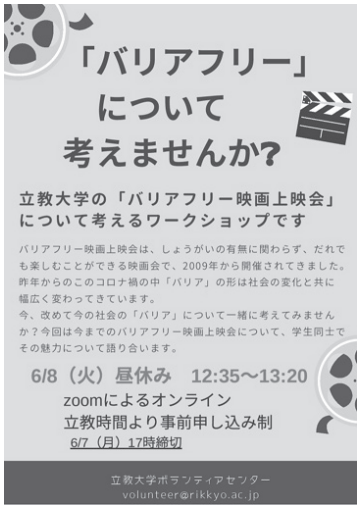
Ⅴ．開催ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ報告

2021 年度開催プログラム一覧

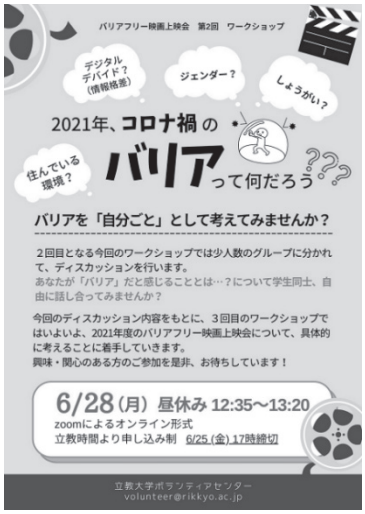
時期	プログラム名	実施方法	テーマ
春学期			
４月	ボランティアサークル緊急連絡会（コロナ対応、ハラスメント啓発、SNS・個人情報の注意について）	オンライン	知る
	学生サポーター定期ミーティング開始	オンライン	動く
	WelcomeWeek①、②、③、④、⑤	オンライン	知る
５月	WelcomeWeek⑥、⑦、⑧、⑨	オンライン	知る
６月	バリアフリー映画上映会ワークショップ①	オンライン	知る・動く
	ボランティア・プレサミット①	オンライン	知る
	バリアフリー映画上映会ワークショップ②	オンライン	知る・動く
７月	バリアフリー映画上映会ワークショップ③	オンライン	知る・動く
８月	バリアフリーコアメンバー夏の研修①	オンライン	動く
	学生サポーター夏の研修①	オンライン	動く
	バリアフリーコアメンバー研修②	オンライン	動く
９月	学生サポーター夏の研修②	オンライン	動く
	バリアフリーコアメンバー定期ミーティング開始	オンライン	動く
秋学期			
10 月	ボランティア プレサミット②	オンライン	知る
	ボランティア・カフェ(学生サポーター企画①)	オンライン	知る・動く
11 月	ボランティア・カフェ(学生サポーター企画②)	オンライン	知る・動く
12 月	バリアフリー映画上映会①（事前ワークショップ）	オンライン（池袋）	動く
	バリアフリー映画上映会②（上映会・座談会）	オンライン（池袋）	動く
	ボランティア プレサミット③	オンライン	知る
2022 年			
２月	災害救援ボランティア講座（～３月）	池袋	学ぶ
３月	サービスラーニングセンター（RSL）＆ボランティアセンター協同企画	オンライン	知る・学ぶ
	ボランティアサミット	オンライン	知る
	学生サポーター&ボランティアセンター懇談会	オンライン	知る・学ぶ
	ボランティア・カフェ(学生サポーター企画③)	オンライン	知る・動く

Online Welcome Week①

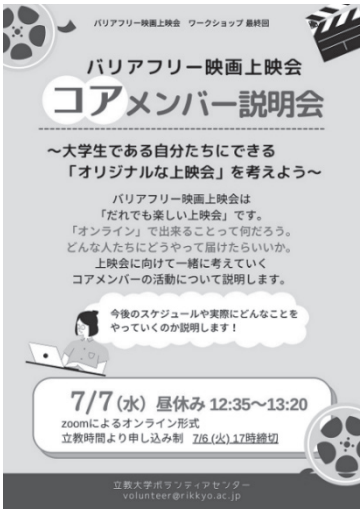
Online Welcome Week②



バリアフリー映画上映会
ワークショップ①

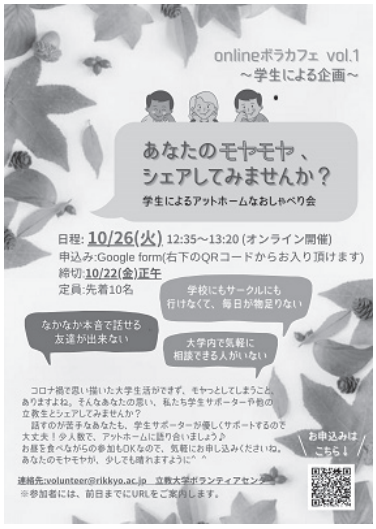


バリアフリー映画上映会
ワークショップ②

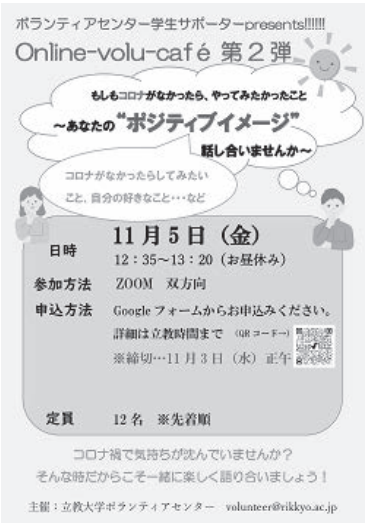


バリアフリー映画上映会
ワークショップ③

バリアフリー映画上映会
ポスター



ボランティア・カフェ
（学生サポーター企画①）



ボランティア・カフェ
（学生サポーター企画②）

サービスラーニングセンター（RSL）＆ボランティアセンター協同企画

１．学生の関心、問題意識の喚起

（１）バリアフリー映画上映会

開催日時	＜事前ワークショップ＞　2021.12.４（土）13:30 開始～15:00 終了 ＜上映会・座談会＞　　2021.12.11（土）13:00 開始～16:00 終了
開催方法	Zoom によるオンライン上映
タイトル	映画『だれもが愛しいチャンピオン』 （監督・脚本：ハビエル･フェセル、スペイン、2018 年､118 分）
主催・運営 協力	ボランティアセンター、バリアフリー映画上映会学生メンバー 車椅子バスケットボール埼玉ライオンズ しょうがい学生支援室、ボランティアセンター学生スタッフ
目的	立教大学独自のバリアフリー上映会として、しょうがいの有無に関わらず参加者全員が「ともに映画を楽しむ」とはどういうことなのか、学生自らが考えながら、企画・運営を行う。
内容	昨年度に続きオンライン上映会となったが、今年度は事前ワークショップおよび映画上映後に参加者による座談会という２日間構成で実施した。それぞれの内容をより有意義なものとする目的で、参加人数を各回先着 40 名とし、学内関係者（学生・教職員）に加え、映画の題材を考慮して、上映会の学生メンバーの出身校（中学・高校等）や、日頃つながりのある地域のボランティア団体にも広報した。 両日とも、画面上の全体の司会進行は、学生メンバーが中心となって行い、ブレイクアウトセッションでは、学生メンバーも進行役や記録係として参加し、各グループで出た意見は、タイムリーに Google スライドで全体共有される形をとった。他大学の学生や教職員、一般の方々も参加され、学生や社会人、年齢や学年の壁を越えてバリアについて一緒に考え、ひとつの作品でつながった参加者とともに、感想や意見を直接共有できる貴重な時間となった。 ＜事前ワークショップ＞ パラスポーツと「バリア」について学び・考えるワークショップ ・学生による取材動画の紹介（車椅子バスケットボール見学） ・「しょうがい者スポーツについて」の講義／中村真博氏（埼玉ライオンズマネージャー、本学コミュニティ研究科博士課程後期課程３年） ・ブレイクアウトセッション「パラスポーツとバリア」、発表、まとめ ＜上映会・座談会＞ ・今年の立教大学バリアフリー映画上映会の取り組みについて紹介 ・映画『だれもが愛しいチャンピオン』上映 ・座談会（前半：映画の感想共有、後半：様々なバリアについて考える）
バリアフリー 対応	映画本編日本語字幕付き、手話通訳・文字通訳（上映会プログラムの一部）
参加者数	事前ワークショップ：14 名（＋運営側・学生メンバー24 名、計 38 名） 上映会：24 名（＋運営側・学生メンバー26 名、計 50 名） 座談会：16 名（＋学生メンバー15 名、計 31 名）
参加者の感想	・自分とは異なる視点や意見を聞くことができて、学びが多かった。 ・ステレオタイプな考え方にならないためにはどうすればいいのかということについて、新たな考え方を知ることができ、今後授業での学びにも活かせると思った。 ・（映画の内容にもあったが）人を創るということはとても大切であると同時に難しくもあるが、私自身も教員生活を通じてその一翼をどこかで担うことができるなら、それは幸せな仕事であるということを改めて感じた。
今後に向けて	今年、これまでの上映会と大きく変えたところは、学生組織の変革である。コロナ

	禍において、学生同士の連携が難しいという昨年の課題を踏まえて、今年は従来の学生実行委員会を一度解散し、上映会に関わる学生を新たに募集した。 ６月から、「コロナ禍の中の『バリア』とは何か？」をはじめ、オンラインでできる映画上映会の形や内容について議論を重ね、今年は「バリアフリー対応をするための上映会」ではなく、「バリアについて考える上映会」にすることに決めた。新しい形のスタートで、試行錯誤の連続ではあったが、学生たちが積極的に関わることで、これまでにない２週連続の充実したプログラムとなり、オンラインの良さを十分に活かした内容となった。 今後もwithコロナが続くことが予想されるが、その時々で、どのような形や内容で開催する上映会が望ましいのか、ボランティアセンターがバリアフリー上映会を開催する意義を考え、主催部署として、本イベントの運営について、スタッフ一同協力連携をしながら進めていく必要がある。

（２）バリアフリー映画上映会学生メンバーの活動

テーマ	みんなが楽しくみんなが輝く 違いを愛そう！優しさと勇気を持とう！個性を愛そう！
活動報告	新しく集まった学生メンバー17名で、週に一度の全体ミーティングに加え、活動班ごとも適宜話し合い（すべてオンライン）、映画会のコンセプトや上映作品、プログラム等を決めて準備を進めた。 上映作品の「だれもが愛しいチャンピオン」が知的しょうがい者のバスケットボールチームの葛藤を描いた内容であることから、参加者にその内容をより身近に感じてほしいという思いで、まずは自分たちがパラスポーツへの知見を広めようと、車いすバスケットボールチームの練習を取材見学し、事前ワークショップでその様子を動画で紹介した。オンラインのミーティングのみで、自分たちにできることを模索しながら本番を迎えたが、学生全員の想いがよく反映されたプログラムとなり、学生メンバー自身も本上映会の活動を通じて「バリア・しょうがい」に関する意識が変わったことを実感していた。
今後に向けて	コミュニケーションや進捗管理が課題となった昨年の状況を踏まえ、今年は、ミーティングの際には、事前にワークシートやアンケート等をまとめ、ミーティング後は宿題として期限を決めて対応していくことで、限られた時間を有効に使い、着実に進めるよう心掛けた。 学生たちの積極的な姿勢と興味は尽きることなく、出てくる意見やアイディアの素晴らしさにはいつも感心させられた。上映会終了後もSNSで発信を続けて、活動を記録に残すことで来年にもつなげたいという申し出もあった。スタート時点から丁寧に何度も話し合いを行い、ビジョンを明確化し、共通の目標に向かって活動したことで、結果として、仲間意識や充実感が生まれ、更なるチャレンジにもつながった。当初のワークショップで、「オンライン授業のまま、大学生だけが取り残されている。」と孤独を感じていたそれぞれのメンバーが、この経験を通じて自信を持ち、仲間ができ、居場所になったことは何よりの成果だと考える。今後も、学生とボランティアセンターが共に考え動くことで、上映会を進化させていきたいと思う。

当日の様子

２．各種ボランティア講座、講演会の充実

（１）オンデマンド ボランティアオリエンテーション

開催日時	2021 年３月１日（月）～８月 31 日（火）
開催場所	オンライン（新入生オリエンテーションサイトよりリンク）
内容	毎年４月に、「新入生オリエンテーション行事」の一環として、ボランティアオリエンテーションを開催し、学内のボランティア関連部局の紹介、ボランティアセンターの活用方法、学生ボランティアサークルの紹介などを行っているが、2020 年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった。 2021 年度は、当初より、新入生オリエンテーションのオンライン開催の方向性が示されていたので、ボランティアオリエンテーションも、対面で開催していた内容をすべて、ボランティアセンターホームページ内で、オンデマンド形式で配信する方法に変更した。 2020 年９月より、サイト作成をはじめ、学生ボランティアサークルに対しても、各サークルの紹介動画を提供するように依頼し、2021 年２月にサイトが完成した。３月上旬から以下のような構成のサイト情報を新入生に向けて提供を開始し、さらにオリエンテーションが開催されなかった新２年生に対しても、立教時間からの SPIRIT メールを利用して、情報を配信した。 【オンデマンド ボランティア・オリエンテーションサイト】 ①ボランティアセンター紹介 ・ボランティアセンター紹介【動画】 ・ホームページ／SNS／メールマガジン ②ボランティアセンター主催プログラム紹介 ・一貫連携清里環境ボランティアキャンプ【動画】 ・農業体験 in 山形県高畠町【動画】 ・バリアフリー映画上映会【動画】 ・全学共通科目「ボランティア論」 ③関連部署紹介 ・立教サービスラーニングセンター ・陸前高田サテライト（東日本大震災復興支援） ④学生ボランティアサークル紹介 ・学生ボランティアサークル紹介【動画】 ・学生ボランティア団体紹介冊子【PDF】 ・学生ボランティア SNS・ホームページ紹介【HTML】 ⑤オンライン ウェルカム ウィーク告知【PDF】 ⑥アンケート【Google Form】 期間中に延べ 1,571 名が視聴したことになる。 学生ボランティアサークルにも新入部員の加入が見られ、成果を感じることができた。
今後に向けて	対面開催の場合は、池袋・新座でそれぞれ開催する必要があったが、オンデマンド配信にすることにより、新学期からの事務負担は軽減が図れ、また、より多くの新入生に情報を届けることができた。 学生同士の対面での交流の機会が不足しているので、学生部主催の新歓イベントとの共同実施など、制限下でも可能な交流の機会を確保するように準備を行いたい。

（２）Online Welcome Week

開催日時	2021.４.26（月）、４.27（火）、４.28（水）、４.29（木）、４.30（金）、 ５.５（水）、５.６（木）、５.７（金）、５.10(月) 12：30～13：20　（お昼休み）　※オンライン開催 ※2020 年度はオンライン開催 　2019 年度は、各キャンパスに分かれて、それぞれ２回実施 　池袋　2019. ４. 22(火)～４.26(金) ９：00～17：00 　新座　2019. ４. ８(月)～４.12(金) ９：00～17：00
開催場所	オンライン（Zoom による配信）
内容	毎年４月に、「新入生オリエンテーション行事」の一環として、ボランティアオリエンテーションを開催し、学内のボランティア関連部局の紹介、ボランティアセンターの活用方法、学生ボランティアサークルの紹介などを行っていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響でオンラインプログラムに切り替えとなった昨年度に続き、2021 年度もオンラインで開催した。 昨年度からの変更点は、Google Meet によるストリーミング配信から Zoom に切り替えたこと、また、主な対象を新１年生及び新２年生としたことである。新２年生は、長期間にわたり大学生活をすべてオンラインのまま過ごすことを余儀なくされたこともあり、まだサークルに入っていない学生も多くいる。そのような学生にも声が届くように広報し、参加しやすいように配慮した。 開催日は、各ボランティアサークルの幹部と調整を行い、１回につき２団体を基本とし（一部スケジュール調整の難しいサークルは単独で開催）、９日間にわたり紹介した。各回にボランティアコーディネーター１名と各サークルの代表数名までの構成で、学生によるサークル紹介（パワーポイント・動画の共有）の後、１・２年生からの質問はチャットにて受け付ける形とした。 延べ 120 名（うち、新２年生は４割弱）が参加し、各回とも、当日は、各サークルの活動の魅力、活動をはじめたきっかけ、ボランティアの魅力や社会と関わることへの楽しさなどを直接伝える良い機会となった。 今年度は、キャンパスを越えた入部や２年生でもまだ入部できるかということ、また活動スケジュール等、入部を検討する具体的な質問も毎回のように出て、積極的な姿勢が窺われた。全体的には、教育や環境分野に関心が高い傾向が見られた。 オンラインでの開催は、興味のあるサークルの情報がキャンパスを越えて収集できるというメリットに加えて、自分が興味のあるサークルの説明だけを視聴できる点は、時間節約にもなるという利点をアンケートで挙げた学生もいた。 なお、イベント開催情報は、昨年度と同様に、学内 e ポートフォリオ「立教時間」のイベント掲載ページ、ボランティアセンター専用の SNS（Instagram、Twitter）上で告知し、事前に URL と Google フォーム（事後アンケート）を掲載した。 ＊参加サークル　【カテゴリー】　（当日参加人数） ４.26（月）PRC【国際】、B.S.A 第８支部【総合】（15 名） ４.27（火）Frontiers【復興支援】、Three-S【復興支援】（15 名） ４.28（水）立教大学献血運動の会【総合】、Bambino　【教育】（11 名） ４.29（木）立教大学 YMCA【総合】、RESC（立教大学教育研究会）【教育】（20 名） ４.30（金）アジア寺子屋【国際】、堀の内セツルメント　【教育】（16 名） ５.５（水）手話サークル HandShape【福祉】（９名） ５.６（木）ボランティアパフォーマンスサークル どりぃむ・ぼっくす【福祉】、 　　G.F.S【総合】（８名） ５.７（金）R.S.C.C（海岸清掃サークル）【環境】、 　　REPC（立教エコキャップ推進委員会）【環境】（20 名） ５.10（月）日曜学校さゆり会【教育】（６名）

今後に向けて	昨年度に比べて、キャンパスへの入構制限は緩和されたものの、なかなか学生同士が知り合う機会が少ない中、「Online Welcome Week」の開催は、学生同士、またボランティアセンターと学生をつなぐ一つのきっかけとなった。 新型コロナウイルスの影響で、依然として、長期間にわたり課外活動が制限されてきたことには変わりはなく、自分たちの活動そのものの継続の問題や、新歓活動等において課題は抱えているものの、コロナ禍も２年目となり、その中でも、どのタイミングでどのようなことを発信していったらよいのか、私たちスタッフも学生たちも、昨年度の経験を踏まえて準備を行った。スタッフ・学生ともに、オンラインで行うことにも少しずつ慣れてきて、各回のプログラム構成、当日の進行・記録、動画の再生のタイミングや方法など、以前の振り返りや改善点を反映して円滑に行うことができたように感じている。 サークルの学生たちにとって、自分たちの所属するサークルの活動理念や楽しさ、やりがい等を改めて振り返り、発信する場として非常に有意義な場となった。そして同時に、その生き生きとした姿を見て「ボランティア活動を通していろいろなことを学びたいと思った」という参加者の声も複数あった。 次年度以降も、学生たちの声を参考に、ボランティアに関心のある学生と各ボランティアサークルをつなぐことができるよう支援を行っていきたい。

（３）①オンデマンド 「海外ボランティア講座」

開催日時・場所	ボランティアセンターホームページでのオンデマンド配信
主催 共催	立教大学ボランティアセンター NPO 法人 ICYE ジャパン 認定 NPO 法人 CFF ジャパン（2020 年度より） 特定非営利活動法人 グッド（2020 年度より） 特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会（2020 年度より）
開催内容	昨年度に引き続き、「海外ボランティアや海外ワークキャンプに関心がある」、「海外での経験を今後のキャリアに活かしたい」等の学生を対象にオンデマンドの海外ボランティア講座の配信を開始した。 昨年度掲載した動画も引き続き、視聴できるようにし、内容に充実を図った。2021 年度は、例年利用者が多く、長期の派遣型活動に定評のある、NPO 法人 ICYE ジャパンに制作を依頼し掲載した。
次第	2021 年７月 30 日（金）より、更新された内容は以下の通りとなる。 はじめに ボランティアセンターの説明動画 海外ボランティア主催団体の紹介 ・認定 NPO 法人 CFF ジャパン紹介動画（継続） ・特定非営利活動法人 グッド紹介動画（継続） ・特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会紹介動画（継続） ・NPO 法人 ICYE ジャパン紹介動画（追加） 参加者の体験談 ・2016 年 韓国「日韓交流キャンプ」体験談動画（継続） 2020 年度 ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学部ｺﾐｭﾆﾃｨ政策学科４年次 長壁 唯 ・2019 年ミャンマー 「ミャンマースタディーツアー」体験談動画（継続） 2020 年度 文学部文学科（文芸・思想専修） ４年次 清水 綾乃 ・2020 年マレーシア 「マレーシアワークキャンプ」体験談動画（継続） 2020 年度 現代心理学部心理学科３年次 高橋 歩実 ・2019 年カンボジア 「カンボジア体験ボランティア」体験談動画（継続） 2020 年度 経営学部経営学科２年次 佐藤 花凛 ・2019 年デンマーク 「長期国際ボランティア」体験談動画（追加） 2019 年度 法学部政治学科４年次 赤松 加寿代 質問・問合せ
今後に向けて	国内における対面活動の再開、条件付きでの宿泊を伴うボランティア活動についても、緩和されつつある。 海外渡航制限については、留学の再開により一定の見通しも可能となったが、海外ボランティアの活動先については、未だ予断を許さない状況でもある。今後も、海外ボランティア主催団体の活動紹介を継続し、また、同団体が主催する国内ワークキャンプなどの情報の発信についても、学内の制限レベルを勘案しながら、検討していきたいと思う。

３．学生活動支援

（１）ボランティアサークル

ボランティア・プレサミット

開催日時	第１回：2021.６.24（木）　12:35～13:20　※オンライン開催
開催場所	オンライン（Zoom によるミーティング形式）
参加者	【プレサミット参加団体】　計 17 団体、17 名 １．R.S.C.C（Rikkyo Sea Cleanig Circle） ２．REPC（立教エコキャップ推進委員会） ３．日曜学校さゆり会　４．堀の内セツルメント（立教大学子ども会） ５．RESC（立教教育研究会）　６．PRC(Philippines Relationship Circle) ７．東日本大震災復興支援団体 Frontiers　８．B.S.A.第８支部 ９．立教大学 G.F.S　10. 立教 YMCA　11. 献血運動の会 12. 子どもクラブ Bambino　13. 手話サークル Hand Shape 14. アジア寺子屋　15. ボランティア・パフォーマンスサークルどりぃむ・ぼっくす 16. 東日本大震災復興支援団体 Three-S　17. SEMBRAR
内容	１．開会のあいさつ 　プレサミットの主旨・ねらいの説明 ２．学生ボランティアサークルの現状報告・情報共有（１団体約１分程度） 　・事前アンケートの結果内容を共有 ３．６/20 以降(緊急事態宣言解除後)のボランティア(課外)活動について 　・夏休みの活動について 　・コロナ感染対策の留意点と大学への事前事後連絡について 　・ボランティア保険について ４．ハラスメント啓発について ５．チャット機能について ６．その他（ボランティアセンターからの連絡事項など） 　・秋以降のスケジュールの提示 昨年度と同様に、参加メンバーの取りまとめや各サークルの状況については、事前アンケートとして Google フォームで集約し、抜粋した内容を事前に参加者にメールで共有し、資料に目を通したうえで参加してもらうことで、時間を効率的に使うことのできるよう準備した。
所感	今年度もオンラインの利点を活用し、キャンパスを越えて一度により多くの情報共有ができた。このプレサミットで他のサークルの取り組みを聞くことで、後日、別途サークル同士でミーティングを設ける機会があったが、オンラインでの活動の詳しい内容を聞き参考にすることで、他のサークルの活動も動き出したケースがあった。学生にとって、サークル同士で直接連絡を取り合うことはハードルが高く感じているようでもあり、ボランティアセンターが積極的に声をかけ、学生をつないでいくことの大切さを改めて感じた。

開催日時	第２回：2021.10.6（水）　12:35～13:20　※オンライン開催
開催場所	オンライン（Zoom によるミーティング形式）
参加者	【プレサミット参加団体】　計 17 団体、18 名（一部２名参加あり） １．R.S.C.C（Rikkyo Sea Cleanig Circle）　２．REPC（立教エコキャップ推進委員会） ３．日曜学校さゆり会　４．堀の内セツルメント（立教大学子ども会） ５．RESC（立教教育研究会）　６．PRC(Philippines Relationship Circle) ７．東日本大震災復興支援団体 Frontiers　８．B.S.A.第８支部 ９．立教大学 G.F.S　10. 立教 YMCA　11. 献血運動の会

	12. 子どもクラブ Bambino　13. 手話サークル Hand Shape 14. アジア寺子屋　15. ボランティア・パフォーマンスサークル どりぃむ・ぼっくす 16. 東日本大震災復興支援団体 Three-S　17. SEMBRAR
内容	１．開会のあいさつ 　プレサミットの主旨・ねらいの説明 ２．緊急事態宣言解除後のボランティア活動（制限レベルに応じた対応）について 　・10/４～レベル２、10/18～レベル１に緩和。対面活動は可能になる。 　＜以下注意＞ 　・活動に関する事前相談 　・宿泊、会食禁止、感染予防対策、連絡先・行動履歴を把握 　・活動先との十分なコミュニケーション、保護者の同意 ３．学生ボランティアサークルの現状報告・情報共有（１団体約１分程度） 　・事前アンケートの結果内容を共有 ４．ボランティアセンターからの連絡事項 　・代交代後の連絡 ５．ボランティアセンター課長よりあいさつ
所感	緊急事態宣言解除に伴い、課外活動制限レベルも緩和され、対面でのボランティア活動も可能となることを受け、学生たちも希望を持てた様子であった。制限レベル２と１では、事前事後の連絡先・行動履歴の申請方法が変わるため、今回のサミットでは、その違いについて詳しく説明した。なお、ボランティア活動は相手先もある活動であるため、活動をする際には、必ずボランティアセンターにその都度、内容を相談することになっている。

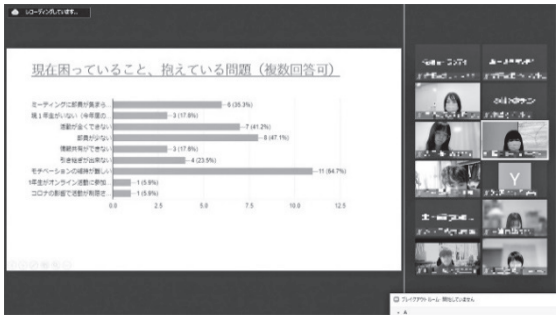
開催日時	第３回：2021.12.16（水）　12:35～13:20　※オンライン開催
開催場所	オンライン（Zoom によるミーティング形式）
参加者	【プレサミット参加団体】　計 16 団体、20 名（一部２名参加あり） １．R.S.C.C（Rikkyo Sea Cleanig Circle）　２．REPC（立教エコキャップ推進委員会） ３．日曜学校さゆり会　４．RESC（立教教育研究会） ５．PRC(Philippines Relationship Circle) ６．東日本大震災復興支援団体 Frontiers　７．B.S.A.第８支部 ８．立教大学 G.F.S　９．立教 YMCA　10. 献血運動の会 11. 子どもクラブ Bambino　12. 手話サークル Hand Shape 13. アジア寺子屋　14. ボランティア・パフォーマンスサークル どりぃむ・ぼっくす 15. 東日本大震災復興支援団体 Three-S　16. SEMBRAR ※上記ボランティアサークルの他、学生保険委員会が参加
内容	１．開会のあいさつ 　プレサミットの主旨・ねらいの説明 ２．学生ボランティアサークルの現状報告・情報共有（１団体約１分程度） 　・事前アンケートの結果内容を共有 ３．ボランティアセンターからの連絡事項 　・代交代後の連絡 　・コロナ禍における活動の留意点について 　・ハラスメントについて 　・ボランティア保険について ４．オンデマンドボランティアオリエンテーションについて 　・2022 年 4 月の新入生向けオリエンテーションサイトの説明および準備・提出物 ５．災害救援ボランティア講座について

所感	日頃から、ボランティアセンターの活用やサークル同士のつながりを繰り返し呼びかけることで、サークルの活動再開に向けて、学生からの相談も増えた。ただ、積極的に動き出している団体と、再開に向けてまだ動き出せない団体との差も見られるため、細かくフォローしながら、個別に対応していきたいと思う。

Zoom メインルームの様子

ボランティアサミット

開催日時	2022.３.８（火）　9:30～12:30
開催場所	オンライン（Zoom によるミーティング形式）
参加者	【サミット参加団体】　計 16 団体、32 名 １．R.S.C.C（Rikkyo Sea Cleanig Circle）　２．REPC（立教エコキャップ推進委員会） ３．日曜学校さゆり会　４．堀の内セツルメント（立教大学子ども会） ５．RESC（立教教育研究会）　６．PRC(Philippines Relationship Circle) ７．東日本大震災復興支援団体 Frontiers ８．立教大学 G.F.S　９．立教 YMCA　10．献血運動の会 11．子どもクラブ Bambino　12．手話サークル Hand Shape 13．ボランティア・パフォーマンスサークル どりぃむ・ぼっくす 14．アジア寺子屋 15．東日本大震災復興支援団体 Three-S　16．SEMBRAR
内容	・ボランティアサミットの意義を理解する。 ・各団体課題の共有と取り組みについての情報交換 ・ボランティアセンターの活用法 ・ハラスメントについての理解 ・グループセッション（活動の現状、SNS の活用法、オンラインで試してみたいこと等について） ・新歓活動（2022 年度オンデマンドボランティアオリエンテーション・WelcomeWeek 開催）に向けての具体的な検討



ボランティアサミットの様子

（２）学生サポーター

テーマ	学生サポーターとは、ボランティアセンターの職員と協働し「立教大学のボランティア活動の活性化」を目的として本年度より活動を始めた。ボランティアセンターのイベント企画や運営に、学生の声を反映させ、学生が主体的に関わることで、より学生のニーズを取り入れた学生支援を目指す。 また新型コロナウイルス感染拡大により、大学生はオンライン授業が中心となり、学生同士の繋がりが一層希薄になっている。それに伴い、学生たちは「人と関わる場」「気軽に話し合える居場所」を求めている。 こうした状況を鑑み、学生とボランティアの活動先を繋げるだけでなく、学生同士を支え合う仕組みづくりの必然性を感じ、学生による学生支援の形としてサポーター制度を導入した。
活動報告	今年度は４年生３名、２年生２名、１年生２名の合計７名で活動をスタートさせた。ボランティアの活動経験者や、ボランティアに興味のある学生を中心に意欲的に活動に参加している。 〇定期ミーティング おおむね週１回昼休みにオンラインで開催。オンラインボラカフェの企画準備のための話し合いが中心であるが、学生サポーター同士が繋がりを深めるために、自分の関心のあることを共有し合う場にもなった。 〇夏休みの研修 当初対面での実施を予定していたが、コロナウイルス感染拡大の影響によりオンラインで実施。 2021.８.４（水）、2021.９.１（水）13：00～16：00　　２日間開催 〈内容〉 ・学生サポーターの活動の主旨、年間スケジュールの確認。 ・活動にあたっての留意点の確認 ・４年生によるボランティア経験のプレゼンテーション ・秋学期の企画の準備 〇イベントの企画・実施 秋学期に Online Volu-Cafe を２回開催した。 学生サポーターは２つのグループに分かれて、ポスターの作成、テーマの設定から主体的に準備し、司会進行も学生サポーターが担当した。 ２月にボランティア経験のある卒業生へのインタビューをまとめる予定。
今後に向けて	今年度から始まった学生サポーター制度は、ボランティアセンターに頻繁に来訪していた学生や、ボランティア活動に非常に関心意欲の高い学生にコーディネーターが直接声をかけて集まった。 次年度からはどのように学生を募集するのかも検討する必要がある。 学生サポーターからは「ボランティアに対する『敷居』を低くしたい」「ボランティアセンターを知らない学生に、自分たちの活動を知ってもらいたい」という声が上がっている。これらの意見をどのように次年度の活動につなげていくのかが課題である。また、今年度も対面での活動ができず、学生サポーター同士も全員直接会う機会がなかった。今後もオンラインでのミーティングやプログラムが中心となることが予想されるが、どういう工夫が必要か話し合う必要がある。学生サポーター同士が縦・横でしっかり繋がりを深めることも肝要であり、ボランティア経験者が卒業する次年度以降、新たなメンバーをどのように募るのかも検討課題である。

（３）Online Volu-Café

開催日時	【第１回】2021.10.26　（火） 【第２回】2021.11.５　（金） 12:35～13:20（昼休み）　※全２回
開催場所	オンライン（Zoom によるミーティング形式）
参加者数	【第１回】参加者５名、学生サポーター３名 【第２回】参加者１名、学生サポーター３名
内容	例年のボランティア・カフェは、それぞれのキャンパスでテーマやゲスト学生を決めてボランティアセンターや会議室などで開催していたが、今年度は昨年に引き続きすべてオンラインでの開催となった。また、６月から新たに導入された学生サポーターが中心となり、企画・運営を担った。 今年は「オンライン中心の大学生活の中で、人とのつながりについて考え意見交換をしよう」というテーマで秋学期に２回にわたり開催した。 テーマの選定にあたり、夏から学生サポーターとコーディネーターが話し合いを重ねた。そこで、例年のような「経験者からボランティア活動の魅力を伝える」という形態ではなく、参加者とも双方向的なやりとりがしたいという意見が出たことから、「想いを共有する場」としての新しい形を考えた。 Online Volu-Café は 45 分という時間の制約もあり、どのように進行していくか、学生サポーターはかなり試行錯誤して準備を進めた。４年生からのアドバイスを参考に、１・２年生のメンバーが意欲的に活動していた。 また、どうしたら多くの学生に関心を持ってもらえるか、ポスターの作成などに工夫を凝らし、テーマの文章一言一句にこだわり話し合いを重ねた。 この過程こそが、学生サポーターにとっての学びの場になっていたようである。 〈主な内容〉 【第１回】 「あなたのモヤモヤ、シェアしてみませんか？」 コロナ禍で思い描いた大学生活ができず、毎日がもの足りなく不安感を抱えている学生たちと、学生サポーターが思いを共有する。 【第２回】 「もしコロナがなかったら、やってみたかったこと～あなたの‘ポジティブイメージ’話し合いませんか～」 コロナがなかったらチャレンジしてみたかったこと、大学生活で期待していた夢などを互いに話し合う。
所感	今年から学生サポーターが企画の段階から主体的に関わり、コロナ禍の今だからこそ学生が抱えている思いに寄り添う形で実施した。 参加者の人数は多くなく、広報については課題が残る。キャンパスに学生がいない状態でのプログラムの周知は SNS や大学のポータルサイト経由に絞られるが SNS の運営方法についても検討の余地がある。 少人数での開催となったが、参加者からは「自分だけが取り残されているような感覚でいたが、同じ悩みを抱えている人がいるとわかり安心した」「孤独感を共有できて、心が軽くなった」という反応があり、運営を担った学生サポーターも達成感を感じたようである。 今までのゲスト学生のプレゼンテーション型のボラカフェの形式は、対面では十分効果があったが、オンラインでの交流となると、より双方向参加型にする工夫が必要だと感じた。

（４）ボランティア活動報告書～TOKYO2020～

	立教大学オリンピック・パラリンピックプロジェクト本部 立教大学ボランティアセンター
内容	新型コロナウイルス感染拡大により、2020 年夏に開催が予定されていたオリンピック・パラリンピック東京大会は延期となった。 立教大学も、大会に多くの大学関係者が参加することなどを勘案し、授業スケジュールの調整なども行い準備した。 延期となった 2021 年度は、感染状況などを勘案しながら、授業スケジュールは例年通りとしたが、開催されることを前提に様々な準備を行い、そのひとつが、大会・準備に参加するボランティアに対する、「授業欠席配慮」、「追試験受験等の教務上の特別措置」の実施となる。 多くの立教生が、実際は大会ボランティア活動に参加していることが予想されるが、ボランティア活動の自主・自発性を尊重し、参加者の正確な把握は行っていない。今回は、主にこの教務上の特別措置の対象となった学生を対象に、活動報告書の作成を呼びかけた。 貴重な体験を多くの人に知ってもらい、また学内で共有することによって、今後の活動に際しての資料として活かしていくことを目的としている。 また、コロナ禍での大会開催に様々な意見があり、すべての人が開催を歓迎する状況ではなかった。また、活動先も異なり、ボランティアに参加する学生間の連携も思うようにならなかったという反省もある。それらを踏まえ、参加者の想いを参加者の間でも共有することも、作成の大切な目的としている。今後、参加した学生間でのネットワーク形成なども期待したい。 教務上の特別措置対象者　15 名 事後アンケート回答者　７名 大会への参加状況　参加できた　５名 参加できなかった　２名 活動報告書作成希望者　４名

＊『ボランティア活動報告書～TOKYO2020～』より抜粋
本報告書は、等身大のありのままの想いを伝え、記録する趣旨で作成している。

東京オリンピック・パラリンピックプロジェクト座長
安松　幹展

東京オリンピック・パラリンピックにボランティアとして参加された学生の皆さん、ボランティア活動お疲れ様でした。今回、ボランティアに参加された皆さんは、性別や年齢、しょうがいなどといった様々な枠組みを超えて、多くの方々と交流する機会にもなったと思います。また、世界各国から集ったトップアスリートをサポートする立場として、多くの学びを得る機会でもあったかと思います。

私が座長を務める「東京オリンピック・パラリンピックプロジェクト」は、社会貢献活動を推進し、本学の教育・研究活動を活性化することを目的として設立されました。皆さんのボランティアとしてのご活躍は、まさに本プロジェクトが掲げる「社会貢献活動」を体現されたと同時に、立教大学の今後のボランティア活動を推進していくエネルギーでもあったと考えています。今回の貴重な経験を、これからの学生生活、そして今後の人生にもつなげていっていただければ幸いです。

ボランティアセンター長
首藤　若菜

東京オリンピック・パラリンピックは、当初 2020 年夏に予定されていました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により、1 年延期となり、2021 年夏に無観客で開催されることになりました。開催にあたっては、様々な混乱が予想され、開催に関する賛否も盛んに論じられました。

そうしたなか、多くの方々がボランティアとして大会に関わり、大会運営を支えてくだいました。ボランティアの方々の活躍は、国内外の選手・関係者から高い賞賛を得ました。

立教大学の学生のなかにも、ボランティアとして大会に参加された方がいます。コロナ禍でのボランティア活動は、ご苦労が多かったことと思います。オリンピック・パラリンピックという世界の舞台に関わり、多様な人々と触れ合うことで、様々な刺激を受け、視野が広がった感じた人も多かったようです。この経験を糧に、残りの学生生活をますます充実させてくださることを願っております。

本報告書は、そうした貴重な経験をより多くの方に共有するために刊行されます。ボランティア活動を考え、取り組むきっかけにしていただければ嬉しく思います。

４．国内キャンプの主催、プログラム開発

(1) 一貫連携教育・立教学院清里環境ボランティアキャンプ

＜実施概要＞

開催日時	８月中旬　２泊３日
開催場所	山梨県北杜市高根町清里、公益財団法人キープ協会　キープ清里キャンプ場
主催 共催	学校法人立教学院、立教大学ボランティアセンター 公益財団法人キープ協会
内容	立教学院の一貫連携教育の目標の一つである「共に生きる力を育てる」をテーマに、①自然から学び自然と共に生きる方法を学ぶこと、②環境問題に関心を寄せ、その環境を守るために力を合わせること、③年齢や学校が違う参加者が共に参加して理解を深めあうことを目指し、立教学院の児童・生徒・学生・教職員が清里の地に一堂に会し、キャンプ開始以来、活動の柱としてきた環境整備に関わるボランティア活動を行う。 【主なプログラム】 ８月中旬（１日目）開会礼拝、オリエンテーション、ポール・ラッシュ記念館の見学、目標・役割づくり ８月中旬（２日目）環境整備ボランティア活動、レクリエーション、高校生と大学生の交流会 ８月中旬（３日目）振り返りシート作成、閉会礼拝
参加者数 ＊2019 年度	小学校：32 名、池袋中：７名、池袋高：４名、新座中：３名、新座高：３名、大学：12 名、各学校スタッフ：９名、合計 70 名

＜2022 年度実施計画＞（2022 年１月末日時点）

開催日時	８月中旬　２泊３日
開催場所	山梨県北杜市高根町清里、公益財団法人キープ協会　キープ自然学校
主催 共催	学校法人立教学院、立教大学ボランティアセンター 公益財団法人キープ協会
内容	昨年に引き続き、2021 年度も中止となったが、2022 年度の再開に向けて、2021 年６月より準備を開始した。 立教学院長、立教大学総長に 2022 年度の実施方針を確認し、感染状況次第ではあるが、対面実施ができるように必要な感染対策を行った実施案を計画し、直近の感染状況に応じて催行判断ができるように準備することとなった。 例年キャンプ場で実施していたが、宿泊施設として十分な感染対策が取れないことが判り、別の施設に変更を行い、また部屋の利用人数を半減するなどの感染対策を取ることとなった。 特に、ワクチン接種が義務付けられない状況のなか、小学生も参加するというプログラムであるため、健康観察アプリの使用、事前 PCR 検査の実施、現地発症に備え、救援者費用の補償を受けられる保険に加入するなどの実施案を策定し、立教学院関係各校が参加する教学常務会にて確認した。 今後、実施判断の基準をまとめたガイドラインなど、修学旅行実務で準備されている資料を元に作成を行い、安心・安全に実施できるように準備を進めていくこととなる。
参加予定数 ＊2022 年度	小学校：27 名、池袋中高（池袋・新座）：11 名、大学：８名、各学校スタッフ：９名、合計 55 名

（２）夏季フィールドワーク、農業体験 in 山形県高畠町

＜実施概要＞

開催日時	９月上旬　５泊６日
開催場所	山形県東置賜郡高畠町和田民俗資料館、ゆうきの里・さんさん
共催	上和田有機米生産組合
内容	【事前学習】 第１回（７月）は、参加学生の交流を深めることと、「高畠」という地での経験を前に何に向き合うか、各自の目的をしっかり意識するための研修を行う。次回の研修会に向けて、各グループ毎にテーマを分担。 第２回（８月）は、それぞれが持つ学びの意識を支え合うため、社会連携教育課課長より「高畠と立教大学がともに紡いできたもの」というテーマで講話。その他、参加者それぞれの参加動機を共有し、互いに支えあう関係づくりを行う。 【現地プログラム】 １日目　援農、渡部宗雄組合長による講演 「上和田有機米生産組合の歴史と未来」、ふりかえり ２日目　援農、組合青年部との交流「高畠で農とともに生きる」、 ふりかえり ３日目　援農先で民泊１日目、ふりかえり ４日目　援農先で民泊２日目 立教卒業生との交流「人生の選択」、ふりかえり ５日目　援農、発表会、交流会、ふりかえり ６日目　菊池良一氏によるそば打ち体験 【事後学習】 10 月の事後研修会では、ふりかえり集を配布し、それぞれの参加動機（目標）に立ち返りながら、学びを深める。
参加者数 ＊2019 年度	15 名（男６名・女９名）、スタッフ３名

＜代替企画＞上和田有機米農業組合×農業体験参加学生　オンライン座談会

開催日時	2021 年 11 月 20 日（土）
開催方法	Zoom によるオンライン開催
共催	上和田有機米生産組合
内容	新型コロナウイルス感染拡大により２年連続「農業体験」が中止となったが、参加学生（卒業生）と上和田有機米生産組合の皆さんが繋がり続けるため、オンラインでの座談会を開催。 冒頭で青年部の皆様制作のメッセージ動画を流し、農業体験での日々を想起し、コロナ禍を経て人と繋がることの大切さに思いを巡らした。 座談会では３人ずつのグループに分かれ、大学生活のこと、食事への意識の変化、農業のことや今年の新米のことなどを自由に話しながら、交流を深めた。 短い時間ではあったが、双方にとって非常に有意義な機会となった。
参加者数	上和田有機米生産組合９名・2018 年度 2019 年度農業体験参加学生および卒業生９名、ボランティアコーディネーター１名　合計 19 名

【参加学生・卒業生の感想】

・コロナ禍では、人と繋がることが困難に感じてしまいがちです。今回の座談会であらためて農業体験での、人との繋がりや経験の大きさを実感し、心強く感じました。立教生も含め、住んでいる所も、進路や仕事も異なりますが、繋がりを大切にしたい、と思える方々に出会えたことに感謝しています。

・農業体験の記憶を振り返るとともに、自分自身、この四年間でどのように成長したか、歩んできたか、考え直すきっかけになりました。自分はやっぱり自然が好きだし、人とコミュニケーションを取りながら作業を進めていくことに楽しさを覚えることを実感しました。農業体験が、自分自身の大学生活の大きな軸となっていることは確かです。この経験を卒業後もいかしていきたいと思っています。

・コロナという大きな壁が立教と高畠を隔ててしまって２年ほど。これから色んな意味において人との関わり方が変化していくだろうと思います。自分の知っているものが消えていくことを受け入れる必要性を感じると共に、逆に自分から歩み寄る必要性というのも感じました。今回、その歩み寄りがなければこの座談会は開催できなかったはずです。繋がりたいと思う気持ちと行動さえ有れば、この関係は途切れることはなく続いていくのだと思います。

オンライン座談会での交流の様子

５．その他のプログラム

（１）立教サービスラーニングセンター（RSL）・ボランティアセンター協同企画

開催日時	2022．３．３（木）　13:00～15:00
開催場所	オンライン（Zoomによるミーティング形式）
主催	立教サービスラーニングセンター（RSL） 立教大学ボランティアセンター
タイトル	立教サービスラーニングセンター・ボランティアセンター協同企画 公開講演会「学生ができる社会活動（入門編） ―池袋地域の学習支援事業の実際を知ろう！―」
開催の経緯	立教大学では、社会連携教育に関して、正課教育としては、立教サービスラーニングセンターが、正課外教育としては、ボランティアセンターが担当し、相互協力連携しながら、同じ課の中で活動してきた。今回は、その相互の知見を活用し、学生の正課教育と正課外教育の学びの往還が促進することを意図し、今年度、初めての協同企画を実施した。 子どもに関わることや学習支援は、ボランティア活動の中でも、本学の学生の関心および参加実績の高い分野である。また、立教サービスラーニングセンターにおいても、相対的貧困・学習支援をテーマとする授業「RSL-コミュニティ(埼玉)」や池袋地域における多文化共生を主題とする「RSL-コミュニティ(池袋)」が開講されていることから、社会連携教育課の共同企画としてこのテーマを取り上げることとした。 本企画を通じて、キャンパスのある地域の社会的課題を認識し、学生自身がどのように関わることができるかを考え行動するきっかけにつながるよう、地域の社会的課題に取り組む団体の方を講師にお迎えした。活動の現場において大学生が担っている役割についても、事例を踏まえてお話しいただき、講義後に意見交換の場を設ける。 なお、新型コロナウイルスの感染状況に左右されることなく、確実に実施できる形式を重視し、オンラインでの開催とした。
参加者	参加者 18 名 本学学生・大学院生・教職員（学内システム「立教時間」および両センターの SNS やメールマガジン等で募集） ※特に、上記「RSL-コミュニティ(埼玉)」「RSL-コミュニティ(池袋)」履修学生、および、日常的にボランティアセンターとつながりのあるボランティアサークル（学習支援を行っている団体の学生）等、本テーマに特に関心の高いと思われる学生には、別途メール等で直接呼び掛けた。
内容	１．講義 ＜講師＞ 松宮徹郎氏（池袋市民法律事務所・弁護士、子どもサポーターズとしま学習支援会「クローバー」、NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク理事） ＜講義内容＞ ・無料学習教室設立に関わる経緯、弁護士の視点からみえる池袋地域の課題等の具体的な事例 ・活動において、大学生が担う役割（課題や可能性を含む） ２．セッション（ブレイクアウトルーム） ３．ゲストスピーカーからのコメント、質疑応答

	４．サービスラーニングセンター・ボランティアセンターの紹介
今後に向けて	プログラムを立案する際に、両センターの大切にしていることや特色、また、日頃関わる学生の傾向を踏まえて、社会的課題に学生自身がどのように関わることができるかを考えるというプロセスを重視したプログラムデザインにすることを意識した。そして、ボランティアに関心をもつ学生だけでなく、「何かを始めたい(けれど、どんな選択肢があるのかわからない)。」「なにか大学生らしいことをしたい。」等の漠然とした思いを抱いている学生たちに、社会連携教育課の協同企画としてどのようなことができるか、何度も話し合った。 オンライン上という限られた空間と時間の中で、運営スタッフを含めた参加者全体が顔のみえる関係で開催することを重視するか、それとも、セッションをグループワーク形式に変更し、人数を拡大するか等、人数についても協議を重ねたが、結果として、今回のような形で開催することが決定した。学生の正課教育と正課外教育の学びの往還を促す初めての協同企画は、参加者の声からも、非常に有意義なものであったことがわかる。 来年度以降も、年１回の企画、または春・秋と分けて年２回として実施することや、テーマについても、各回１テーマを設定して、シリーズ化するという案も出た。対面が可能な状況になれば、対面での開催も検討し、今後も引き続き、正課教育と正課外教育の学びの往還を促進するような両センターの協同企画が、学生の認知度向上やセンター活用への「一歩」につながることを期待する。

オンライン講義の様子

（２）災害救援ボランティア講座

開催日時	2022. ２.19（土）、２.26（土）、３．５（土） 各日 9:00～17:00
開催場所	池袋キャンパス 14 号館 D301 教室、 ポールラッシュ・アスレティックセンター、池袋防災館
主催 協力	立教大学ボランティアセンター 災害救援ボランティア推進委員会、 一般社団法人　防災教育普及会、公益財団法人 日本法制学会
講師	総務省消防庁 OB、東京防災救急協会等
内容	2020 年度は中止となったが、2021 年度は、以下の予定で実施した。 制限レベル１、２においては、対面実施。制限レベル３以上の場合は、オンライン開催として予定された。 震災時において、本講座修了生による自発的な活動を期待し、参加費用を立教大学が負担する措置もなされている。 今後、マニュアルを配布するなど、緩やかな組織化も検討していく予定である。 ２.19（土）災害救援ボランティアの基本、災害ボランティア活動ケースワークほか ２.26（土）応急手当活動（上級救命講習） ３．５（土）災害模擬体験と実技、大学・学生・地域による復興支援と防災活動、災害ボランティア活動の安全衛生と図上演習 ※２.19 と３．５はオンラインで実施。２.26 のみ、実技講習は対面で実施した。
参加者数	本学学生 15 名、本学教職員１名、　一般・他大生３名